

令和2年度

学校評価計画書

(4月作成版)

1. 学校関係者評価委員会 名簿
2. 学校評価について
 - (1) 学校評価の目的
 - (2) 学校関係者評価委員
 - (3) 評価方法
 - (4) 学校評価年間計画
3. 学校教育目標
4. 資料
 - 学力向上ロードマップ
 - 学力向上プラン
 - アンケート
 - ・児童・生徒 学習アンケート
 - ・児童・生徒 生活アンケート
 - ・保護者アンケート
 - ・教職員アンケート

珠洲市立大谷小中学校

1. 学校関係者評価委員会名簿

学校評議員	大廣 永世
学校評議員	南 三重
学校評議員	桜ヶ平好雄
P T A会長	水上 浩
P T A副会長	川端 孝
母親代表	角 奈津子
	庄田真登香

学校長	上田 辰美
教 頭	池田 茂雅

2. 学校評価について

(1) 学校評価の目的

- ①本校の教育活動や学校運営について具体的目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について評価を行う。
- ②評価を通して、組織的・継続的な改善と発展を図り、教育の質の向上をめざす。
- ③保護者や地域住民の理解と参画を得ることで、学校・家庭・地域が連携し、開かれた学校づくりを推進する。

(2) 学校関係者評価委員

①組織

評価委員 校長 教頭

②評価委員

学校評議員	P T A	
大廣 永世	会 長	水上 浩
南 三重	副 会 長	川端 孝
桜ヶ平好雄	母親代表	角 奈津子 庄田真登香

(3) 評価方法

①目標設定

学校教育目標に基づき、4月・9月・1月に目標を設定する

②自己評価の実施

7月・12月にアンケートを実施し、目標の到達度を検証する。

アンケートの対象者は、生徒・保護者・教職員とする。

アンケートの内容は、検証研修支援チームが検討し、実施する。

アンケートの集計は、集計分析チームが行う。

③結果の説明・公表

②の結果を基に、学校関係者評価委員会を実施し、意見交換を行う。

意見交換を受けて、学校便り、学校HP、学校公開、PTA会合を活用して、9月・3月に公表する。

④③を受けて、指導研究チームが改善対策方法等を検討する。

(4) 学校評価年間計画

時期	行事	学校職員	評価委員会
4月	入学式 PTA役員会 PTA総会 授業参観・学級懇談会 保護者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画作成と公表 ・重点項目の設定 ・学力向上ロードマップ 学力向上プラン作成 ・学校評価計画の作成 	
5月			
6月	授業参観 学級懇談	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価計画の周知 ・具体的取組の推進 	
7月	個人懇談	<p style="text-align: center;">中間学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒アンケート ●保護者アンケート ●教職員アンケート 	
8月		<ul style="list-style-type: none"> ・中間学校評価公開 	
9月	体育祭 修学旅行		学校関係者評価委員会 開催①
10月			
11月	学校公開 文化祭		
12月	個人懇談	<p style="text-align: center;">最終学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒アンケート ●保護者アンケート ●教職員アンケート 	
1月		<ul style="list-style-type: none"> ・最終学校評価分析 	
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・最終学校評価報告 ・次年度の計画作成 	学校関係者評価委員会 開催②
3月	PTA役員会 卒業式	<ul style="list-style-type: none"> ・最終学校評価公表 	

3. 学校教育目標

1. 学校教育目標

自己教育力(自分を褒める力・叱る力)を高め、協働的に課題を解決できる児童・生徒の育成
～少人数・義務教育学校のよさ・大谷地区のよさの中で～

2. 校訓とめざす生徒像

友愛 敬愛 郷土愛 強く・正しく・寛らかに

- ・確かな学力を身につけた児童・生徒
- ・粘り強く取り組む児童・生徒
- ・思いやりの心で人とつながる児童・生徒
- ・地域に元気を届けることができる児童・生徒

3. めざす教師像

- ・自己研鑽に励み、授業で児童・生徒を鍛えることができる教師
- ・児童・生徒・同僚・保護者・地域から信頼される教師
- ・児童・生徒の強みを伸ばすことができる教師

【教職員の可能性】

学校が職責を果たすためには、教職員が充実した気持ちで教育に携わる必要がある。

そのためには、職員一人一人の可能性が引き出されることが求められる。

そこで、次の2つを大切にす

- ①一人一人の可能性を大切にす
- ②合言葉は「やってみよう」

【表現と振り返り】

学校が果たす職責の中で、最も大切なことは、「確かな学力」を付けることである。

そのためには、児童・生徒がもっている知識を活用し、表現し、反応する場が充実していることが求められる。

そこで、次の3つを大切にす

- ①児童・生徒の考えを引き出し、高め合う場・機会の保障
- ②自分を振り返る時間の保障
- ③合言葉は「一往復半」

【地域での体験】

児童・生徒が生涯にわたって身につけるべき大切なことは、「しなやかに逞しく生きる力」である。

そのためには、学校、家庭、地域の中で、様々な人と関わり、見守られながら様々な体験をすることが求められる。

そこで、次の2つを大切にす

- ① 地域の中で挑戦し、小さな失敗を経験しながら、それを乗り越える場の保障
- ② 合言葉は「地域に笑顔と元気を届ける」

**目的・方法・ねらいにこだわる。
PDCAサイクルで改善にこだわる。
そして成果につなげる。**

【安心・安全な学校】

教育活動を支える根幹は、安心・安全な学校であることである。そのためには、危機管理意識が高く、問題の未然防止・早期発見・早期解決に努めることが求められる。

そこで、次の2つを大切にす

- ① 些細な変化を見逃さず、報告・連絡・相談をし合う体制をつくる。
- ② 自分のこととして考え、行動できる体制をつくる。

4. 資料（別紙参照）